
取扱説明書

オシロスコープ

SS-7805/04



IWATSU

CE



はじめに

- ◇この度は岩通計測の測定器をお買い上げいただき、ありがとうございます。今後とも岩通計測の測定器を末長くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。
- ◇本取扱説明書をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。お読みになった後も、大切に保管してください。


安全にご使用いただくために

本製品を安全にお使いいただき、人体への危害や財産への損害を未然に防ぐために守っていただきたい事項が本取扱説明書の「 警告」と「 注意」に記載されています。安全にご使用いただくために、必ずお読みください。更に、パネルに注意を促す記号が記されています。

本取扱説明書の「 警告」と「 注意」の説明

 警告	ここに記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する または 重傷を負う可能性が想定されます。
 注意	ここに記載されている事項を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う または 機器が破損する可能性が想定されます。

パネルの記号の説明

 警告記号	人体を保護する および 本器を損傷から守るため、取扱説明書の記載事項を参照の上、ご使用いただくための記号です。
--	---

ご注意

- ◇本取扱説明書の内容の一部を性能・機能の向上などにより、予告なく変更することがあります。
- ◇本取扱説明書の内容を無断で転載、複製することを禁止します。
- ◇本製品に対するお問い合わせなどがございましたら、岩通計測株式会社の営業部、営業所、サービス部にご連絡ください（別紙セールスネットワーク、サービスネットワーク参照）。

履 歴

- ◇2003年 8月 第1版発行
- ◇2005年 1月 第2版発行
- ◇2005年12月 第3版発行
- ◇2006年 3月 第4版発行

安全のために、必ずお読みください。

次ページもお読みください。

警 告

- 周囲に爆発性のガスがある場所で使用しないでください。

爆発性のガスがある場所で使用すると、爆発の原因になります。

- 煙^がでる、異臭^{または}異音^がする場合は、直ちに電源スイッチを STBY にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因になります。電源スイッチを STBY にし、プラグをコンセントから抜いた後、当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

- 本器に水が入らないよう、また、濡らさないようご注意ください。

濡らしたまま使用すると、感電・火災の原因になります。水などが入った場合は、電源スイッチを STBY にし、プラグをコンセントから抜いた後、当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）に修理をご依頼ください。

- 濡れた手で電源コードのプラグにさわらないでください。

濡れた手でプラグにさわると、感電の原因になります。

- ぐらついた台の上や傾いた所^{など} 不安定な場所に本器を置かないでください。

落ちたり、倒れたりすると、感電・けが・火災の原因になります。本器を落としたり、カバーを破損した場合は、電源スイッチを STBY にし、プラグをコンセントから抜いた後、当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）に修理をご依頼ください。

- 通風孔^{などから} 金属や燃えやすい^{ものなど} 異物を入れないでください。

通風孔などから異物を入れると、火災・感電・故障の原因になります。異物が入った場合は、電源スイッチを STBY にし、プラグをコンセントから抜いた後、当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）に修理をご依頼ください。

警告 (続き)

● 三芯の電源コードをご使用ください。

三芯の電源コードを使用しないと、感電・故障の原因になります。

- ・ 三芯-二芯変換アダプタを使用して、二線式のコンセントから電源を供給するときは、三芯-二芯変換アダプタのグランド端子を接地してください。
- ・ 付属の三芯電源コードを使用して、三線式のコンセントから電源を供給すると、電源コードのグランド線で接地されます。

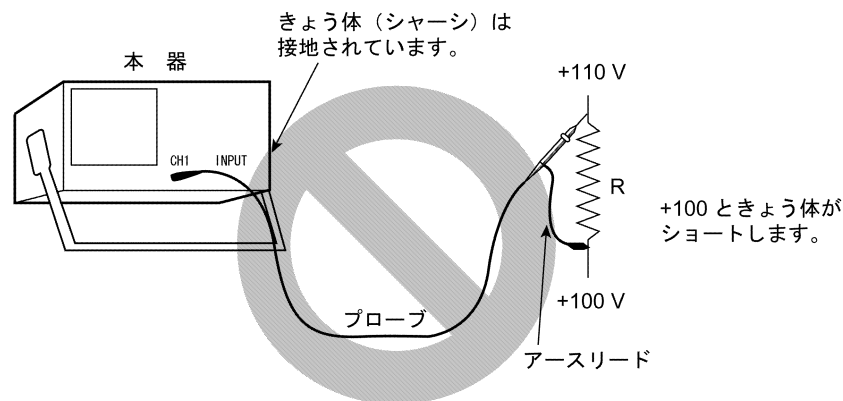
● 規定の電源電圧でご使用ください。

規定以外の電圧で使用すると、感電・火災・故障の原因になります。使用できる電源電圧範囲 (100-120 VAC または 200-240 VAC) は背面パネルに記されています。

● プローブ および 入力コネクタのグランドを被測定物の接地電位 (グランド) に接続してください。

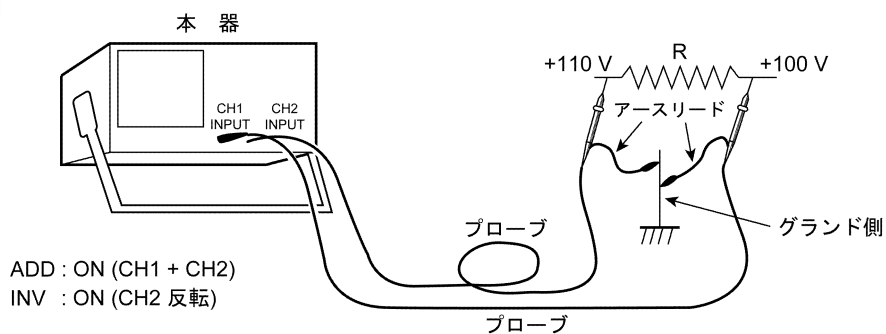
本器のグランドを被測定物のグランド以外の電位に接続すると、感電・事故 (被測定物、本器、接続している他機器の破損) の原因になります (下図[わるい例] 参照)。

[わるい例]



フローティング電位を測定する場合は、差動方式 (CH1 および CH2 入力) による測定をお勧めします (下図[よい例] 参照)。

[よい例]



安全のために、必ずお読みください。

次ページもお読みください。

警告 (続き)

● カバー および パネルを外さないでください。

内部には電圧の高い部分がありますので、さわると感電の原因になります。点検、校正または修理を行う場合は 当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）にご依頼ください。

● 高電圧を測定するときは、十分に気を付けてください。

測定中に高電圧にさわると、感電の原因になります。

● ショルダバッグに入れて運ぶ場合は、適合したショルダバッグをご使用ください。

適合しないショルダバッグを使用すると本器が落下して、けがの原因になります。また、ショルダバッグの縫い目がほころんでいる、切れかかっているなど落下の恐れがあるときはショルダバッグを使用しないでください。

● 電源コードの取扱いについては、以下の事項を厳守してください。

厳守しないと火災・感電の原因になります。電源コードが傷んだ場合は当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）に修理をご依頼ください。

- ・電源コードを加工しない
- ・電源コードを無理に曲げない
- ・電源コードをねじらない
- ・電源コードを束ねない
- ・電源コードを引っ張らない
- ・電源コードを加熱しない
- ・電源コードを濡らさない
- ・電源コードに重いものをのせない

● 本器を改造しないでください。

改造すると、感電・火災・故障の原因になります。改造した場合は修理に応じられないことがあります。

注 意

- ヒューズを交換するときは、指定品（φ5×20 mm T2A/250V）をご使用ください。
指定品以外のヒューズを使用すると、火災・故障の原因になることがあります。また、ヒューズを交換するときは、電源コードを外した状態で行ってください。
- 電源電圧に適合した三芯電源コードを使用してください。
電源電圧に適合しない電源コードを使用すると、火災の原因になることがあります。
また、二芯電源コードを使用すると、感電の原因になることがあります。
ご購入時に指定のない場合は、100 V 系（90 V～132 V）の電源コードを添付しています。
電源電圧が 200 V 系（180 V～250 V）の場合は、当社指定の 200 V 系用（定格 250 V）の三芯電源コード（オプション）をご使用ください。
- 電源スイッチを STBY にしてから、電源コードの接続 および 取り外しを行ってください。
電源スイッチが ON のときに行うと、感電・故障の原因になることがあります。
- 電源コードをコンセントから外すときは、プラグを持って抜いてください。
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
- 損傷したケーブルやアダプタを使用しないでください。
損傷したものを使用すると、火災・感電の原因になることがあります。
- 本器の上にもものを置かないでください。
本器の上にもものを置くと、カバーが内部回路に接触し、感電・火災・故障の原因になることがあります。
- 本器の通気孔 および ファンの近くにもものを置かないでください。
近くにもものを置くと、内部に熱がこもり、火災・故障の原因になることがあります。
- 本器の背面、両側にスペースを開けて下さい。
ラックマウント内または他の測定器上に置くときは温度上昇にご注意下さい。動作及び性能不良になる場合があります。お問い合わせはサービスネットワークをご参照下さい。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
湿気やほこりの多い場所に置くと、火災・感電の原因になることがあります。
- 本器を立ててご使用になる場合は、倒れないようにご注意ください。
本器が倒れると、けが・火災・感電の原因になることがあります。
- プローブ または 測定用ケーブルなどを接続しているときは、それらを引っ張って本器を倒さないようにご注意ください。
本器が倒れると、けが・火災・感電の原因になることがあります。
- 故障したまま使用しないでください。
故障したまま使用すると、火災・感電の原因になることがあります。故障の場合は、当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）に修理をご依頼ください。

安全のために、必ずお読みください。

注 意 (続き)

●規定の動作範囲内でご使用ください。

動作範囲外で使用すると、故障の原因になることがあります。使用できる温湿度範囲は次の通りです。

屋内使用のみ

温 度：0 °C～+ 40 °C

湿 度：90 % RH (0 °C～+ 40 °C) 以下

●入力端子に規定以上の電圧を加えないでください。

規定以上の電圧を加えると、故障の原因になることがあります。入力できる最大電圧は次の通りです。

・CH1, CH2 INPUT

直 接 : ± 400 V DC+ACpeak

SS-0110 (10:1) 相当のプローブ使用時 : ± 600 V DC+ACpeak

・EXT INPUT : ± 400 V DC+ACpeak

[注]：入力信号の周波数・高電圧パルスによっては入力できる最大電圧は低下します。

●輝線や文字を必要以上に明るくしないでください。

必要以上に明るくすると、目の疲労・CRT 焼損の原因になることがあります。

●長時間ご使用にならない場合は、安全のため、必ずプラグをコンセントから抜いてください。

●本器を輸送する場合は、ご購入時の包装材料か、同等以上の包装材料をご使用ください。

輸送中に本器にかかる振動・衝撃が大きいと、故障して火災の原因になることがあります。適当な包装材・緩衝材がない場合は、当社のサービス取扱所（別紙サービスネットワーク参照）にご相談ください。

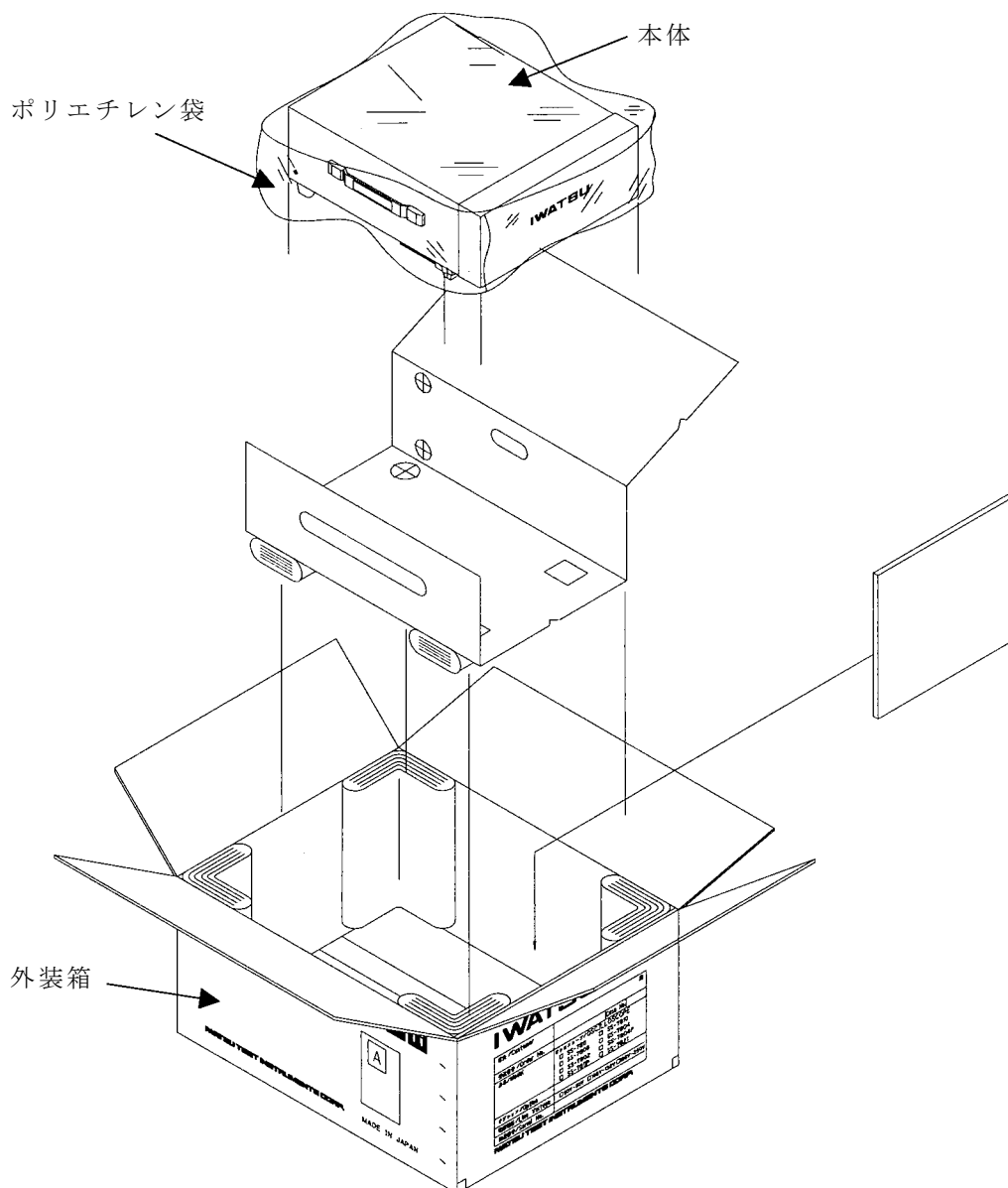
業者に輸送を依頼するときは、包装箱の各面に「精密機械在中」などの表示をしてください。

目 次

はじめに	0-1
安全にご使用いただくために	0-1
警 告	0-2
注 意	0-5
梱包を開ける	0-8
構成品	0-8
バッテリーの交換	0-8
英文字の説明	0-9
第1部 操作箇所	1
1.1 正 面	1
1.2 背 面	2
第2部 基本操作	3
2.1 輝線の表示と画面の調整	5
2.2 プロブの波形調整	6
2.3 位置 (POSITION) の調整	6
2.4 垂直部	7
2.4.1 電圧感度 (VOLTS/DIV)	7
2.4.2 入力結合 (DC, AC, GND)	7
2.4.3 表示チャンネル (CH1, CH2)	8
2.4.4 ALT と CHOP	8
2.4.5 和 (ADD) と差 (INV)	9
2.5 掃引時間 および 拡大	10
2.5.1 掃引時間 (TIME/DIV, VARIABLE)	10
2.5.2 拡大 ($\times 10$ MAG)	10
2.6 掃引方式 (SWEEP MODE)	11
2.6.1 繰り返し掃引 (AUTO, NORM)	11
2.6.2 単掃引 (SINGLE)	11
2.7 同期部	12
2.7.1 同期信号源 (SOURCE)	12
2.7.2 同期結合方式 (COUPL)	12
2.7.3 同期スロープ (SLOPE)	13
2.7.4 同期レベル (LEVEL)	13
2.7.5 テレビ同期	14
2.8 表示方式 (HORIZ DISPLAY)	15
2.9 ホールドオフ (HOLDOFF)	15
第3部 カーソル測定とカウンタ	16
3.1 時間差 (Δt) および周波数測定 ($1/\Delta t$)	16
3.2 電圧差 (ΔV)	18
3.3 カウンタ (COUNTER)	19
第4部 日常の点検	20
第5部 性 能	23
SS-501	27
プローブ SS-0110	28
製品保証	巻末
セールスネットワーク/サービスネットワーク	別紙

梱包物一覧

梱包状態を示します。



構成品

箱の中の品物をご確認ください。

- SS-7805/7804..... 1
- 付属品
 - 電源コード（三芯形）..... 1
 - プローブ SS-0110（10:1）..... 2
 - フロントカバー..... 1
 - ヒューズ（T2A/250 V）..... 2
 - 取扱説明書..... 1

内蔵バッテリーの交換

- 内蔵バッテリーは一般市販品ではございません。交換するときは最寄りの営業所などにお問い合わせください（別紙サービスネットワーク参照）。
- 内蔵バッテリーが消耗したときは、電源投入時にセットアップ条件が初期化されます。

英文字の説明

A	
A 掃引	通常の掃引方式
ADD	CH1 の波形と CH2 の波形を加算して表示する (ADDITION の略)
AC (入力結合)	入力回路にフィルタをかけ、信号に含まれる DC (直流) 成分を除去する入力結合方式
AC (同期結合)	同期回路にフィルタをかけ、信号に含まれる DC (直流) 成分を除去する同期結合方式
ALT (垂直)	同一画面上で複数の波形を相互に切り換えて掃引する (ALTERNATE の略)
B	
BEAM FIND	画面外の波形を画面内に表示させる (BEAM FINDER の略)
BOTH	テレビの垂直同期信号の奇数フィールドと偶数フィールドの両方
BWL	垂直の帯域幅を制限する (BANDWIDTH LIMITATION の略)
C	
CAL	校正用の信号 (CALIBRATION の略) で感度の校正、本器の動作チェックなどに使用する
CH	チャンネル (CHANNEL の略)
CHOP	同一画面上で複数の波形を切り換えて表示する
CLAMP	テレビ信号のバックポーチを基準レベル (グラントレベル) にして表示する
COUPL	同期結合方式 (COUPLING の略)
COUNT	入力信号の周波数をカウンタで測定します
CRT	陰極線管 (CATHODE RAY TUBE の略)
D	
DC (入力結合)	DCおよびACの両方を通過させる入力結合方式
DC (同期結合)	DCおよびACの両方を通過させる同期結合方式
DIV	目盛 (DIVISION の略)
E	
EVEN	テレビの垂直同期信号の偶数フィールド
F	
FET	電界効果トランジスタ (FIELD EFFECT TRANSISTOR の略)
FET プローブ	プローブの先端に FET を取り付けた能動プローブ
FOCUS	フォーカス (焦点)
G	
GND	接地 (GROUND の略)
H	
H カーソル	水平方向に移動させて時間測定に使用するカーソル
HD TV	高精細タイプの TV 方式 (HIGH DEFINITION TELEVISION の略)
HF REJ	高域除去、ローパスフィルタ (HIGH FREQUENCY REJECTION の略)
HOLDOFF	ホールドオフ時間 (ホールドオフ時間を調整して複雑なパルス信号を観測しやすくする)
HORIZ	水平 (HORIZONTAL の略)
HORIZ DISPLAY	<input type="checkbox"/> A 時間軸/電圧軸、 <input type="checkbox"/> X-Y 電圧軸/電圧軸の表示を切り替えます
I	
INTEN	輝度、画面の明るさ (INTENSITY の略)
INV	画面の垂直表示を反転する (INVERSION の略)

L	
LF REJ	低域除去、ハイパスフィルタ (LOW FREQUENCY REJECTION の略)
LINE (同期信号源)	同期信号源の一つで、電源ラインを同期信号源にする
LINE (TV)	水平同期信号のライン番号
M	
MAG	波形を水平方向に拡大する (MAGNIFY の略)
MAX	最大値 (MAXIMUM の略)
N	
NTSC	カラーテレビジョンの 1 方式 (NATIONAL TELEVISION SYSTEM COMMITTEE の略)
O	
ODD	テレビの垂直同期信号の奇数フィールド
OFFSET	オフセット
P	
PAL	カラーテレビジョンの 1 方式 (PHASE ALTERNATING BY LINE の略)
POSITION	垂直・水平方向に輝線を動かします
R	
READOUT	表示文字の明るさ (READOUT INTEN の略)
RH	相対湿度 (RELATIVE HUMIDITY の略)
RST	設定し直す (RESET の略)
S	
SCALE	CRT のスケールの照明 (SCALE ILLUMINATION の略)
SECAM	カラーテレビジョンの 1 方式 (SEQUENTIEL COULEUR A MEMOIRE の略：仏語)
SGL	一度だけ掃引を行う (SINGLE の略)
SLOPE	同期スロープ
SOURCE	同期信号源
SWEEP MODE	AUTO：自励掃引、NORM：起動掃引、SGL/RST：単掃引を切り替えます
T	
TCK	カーソルの間隔を保持して、カーソルを移動する (TRACK の略)
TRACE ROTATION	輝線の回転 (水平目盛に合うように輝線の傾きを調整する)
TRIG	同期 (TRIGGER の略)
TRIG' D	トリガパルスが発生すると点灯します
Tr (立ち上がり時間)	パルス応答特性で、立ち上がり部分の瞬時値が基本振幅の 10 %～90 % までの時間
TV-H	テレビの水平同期信号
TV-V	テレビの垂直同期信号
V	
VARIABLE	垂直電圧感度、水平時間を連続して可変できます
V カーソル	垂直方向に移動させて電圧測定に使用するカーソル
X	
X-Y	X 軸と Y 軸に異なった信号を入力して表示する方式で、2 つの信号間の周波数比や位相差を観測する

第 1 部 操作箇所

1.1 正面

図1.1.1 をご参照ください。

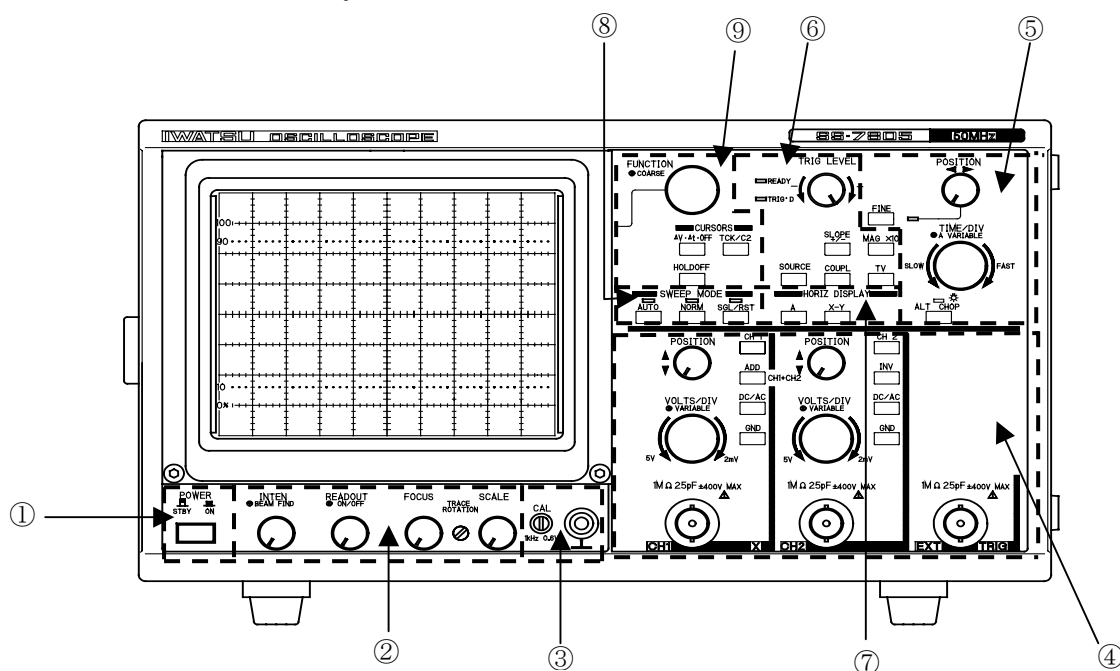


図1.1.1 正面

①POWER : AC 電源を ON/STBY します。

②画面の明るさなどの調整 : 「2.1 輝線の表示と画面の調整」参照。

③CAL 端子 : 「2.2 プローブの波形調整」参照。

⊥ (グラント) 端子 : 測定用のアース。

④垂直軸など

INPUT 端子 : 入力信号の接続。

【VOLTS/DIV】 : 「2.4.1 電圧感度」参照。

CH1, CH2 : 「2.4.3 表示チャンネル」参照。

ADD, INV : 「2.4.5 和と差」参照。

EXT INPUT 端子 : 「2.7.1 同期信号源」参照。

【▲POSITION▼】 : 「2.3 位置の移動」参照。

DC/AC, GND : 「2.4.2 入力結合」参照。

⑤水平部など

【◀POSITION▶】 , FINE : 「2.3 位置の移動」参照。

MAG×10 : 「2.5.2 拡大」参照。

【TIME/DIV】 : 「2.5.1 掃引時間」参照。

ALT CHOP : 「2.4.4 ALT と CHOP」参照。

⑥同期部

【TRIG LEVEL】 : 「2.7.4 同期レベル」参照。

SOURCE : 「2.7.1 同期信号源の選択」参照。

TV : 「2.7.5 テレビ同期」参照。

SLOPE : 「2.7.3 同期スロープ」参照。

COUPL : 「2.7.2 同期結合方式の選択」参照。

TRIG'D インジケータ : トリガパルスが発生すると点灯します。

READY インジケータ : トリガ信号待ちのとき点灯します。

⑦—HORIZ DISPLAY— (A, X-Y) : 「2.8 表示方式」参照。

⑧—SWEEP MODE— (AUTO, NORM, SGL/RST) : 「2.6 掃引方式」参照。

⑨FUNCTION など

【FUNCTION】 : カーソル位置, ホールドオフなどを設定します。

—CURSORS— (ΔV・Δt・OFF, TCK/C2) : 「第3部 カーソル測定」参照。

HOLDOFF : 「2.9 ホールドオフ」参照。

1.2 背 面

図1.2.1 をご参照ください。

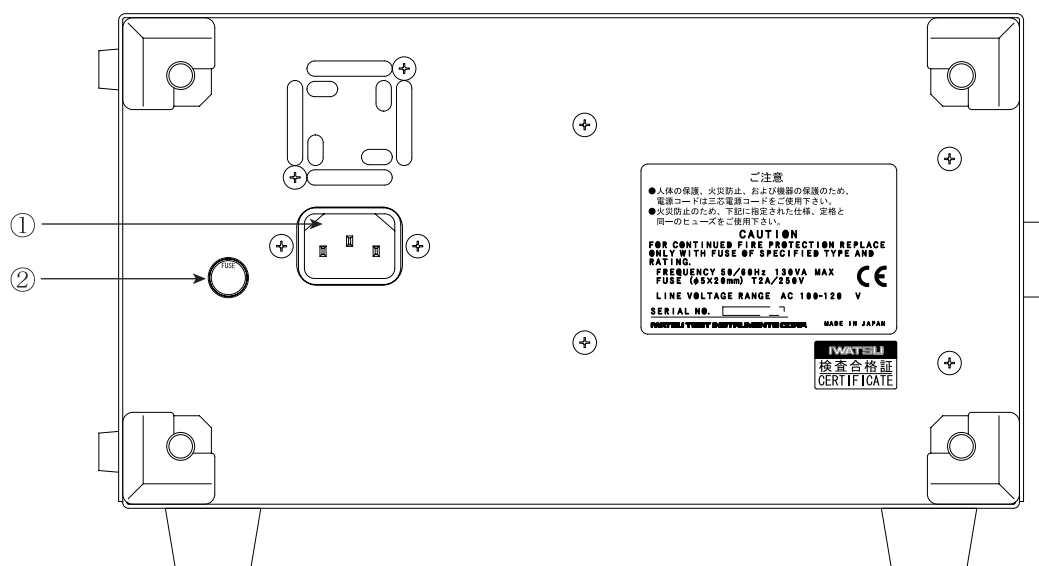


図1.2.1 背 面

①AC LINE INPUT

三芯電源コードを接続します。

②FUSE

φ5×20 mm T2A/250 V ヒューズを挿入しています。

第 2 部 基本操作

⚠ 注 意

●電源コードの接続 および 取り外しは電源スイッチを STBY にしてから行ってください。

●規定の AC 電源をご使用ください。

電圧範囲：100-120 VAC / 200-240 VAC (オプション)

周波数：50 / 60 Hz

消費電力：最大 130 VA

●電源電圧に適合した三芯電源コードをご使用ください。

●通気孔 および ファンの近くにものを置かないでください。

●規定の動作温湿度範囲内でご使用ください。

屋内使用のみ

温度：0 °C ~ +40 °C、湿度：90 % (40 °C) 以下

●入力端子に規定以上の電圧を加えないでください。

◇CH1, CH2 INPUT

・直接 : ±400 V (DC+ACpeak)

・SS-0110 相当のプローブ使用時

10:1 のとき : ±600 V (DC+ACpeak)、1:1 のとき : ±400 V (DC+ACpeak)

◇EXT INPUT : ±400 V (DC+ACpeak)

●輝線や文字を必要以上に明るくしないでください。

お客様の目が疲れるだけでなく、CRT の蛍光面を焼損する恐れがあります。

●長時間使用しない場合は、安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

本器は電源スイッチが STBY 時でも通電しています。

概 要

本器に慣れていただくために CAL 出力 および 信号発生器を使って、基本的な操作を行ないます。信号発生器は岩通計測製 SG-4105 を使用しています。

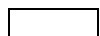
◇パネルの符号

⚠ 警告表示

取扱説明書の記載事項を参照の上ご使用頂くように注意を促す警告符号です。CH1, CH2 および EXT TRIG INPUT の近くに表示しています。


◇取扱説明書の符号


キー、つまみを次の符号で示します。

 : キーを示します。

【  】 : つまみを示します。

◇電源スイッチについて

 : 本器内部のすべての回路に電源が供給され、使用可能な状態になります。

 : 本器の主電源がオフになり、スタンバイ状態になります。
AC LINE INPUT に AC 電源が接続されている場合、本器内部のマイクロプロセッサのみに電源が供給されます。
AC LINE INPUT に AC 電源が接続されていない場合は、パネルセットアップ条件は内蔵バッテリーによりバックアップされます。

◇画面のみかた

- ・主な表示内容

掃引時間	トリガ ソース	トリガ スロープ	トリガ カップル	トリガ レベル	ホールドオフ 時間	
					FUNCTION モード	
ΔV または Δt の測定値					カウンタ測定周波数	
CH1	レンジ	結合	ADD の設定	CH2	INV	レンジ
					掃引拡大	

- ・表示例

A	10 μs	CH1	+DC	-1.00mV	HO:100 %
A	Δt=5.00 μs	1/Δt=200.0kHz	f=200.00 kHz		
1:	100mV	+	2: ↓	200mV	MAG

◇プローブによる負荷効果

ケーブルなどを直接被測定回路に接続すると、測定器の入力インピーダンスが負荷になり、観測に支障をきたすことがあります。本器の入力 RC は“1MΩ, 25pF”です。10:1 プローブを使用すると、“10 MΩ, 22 pF”程度になります。これにより負荷効果が大幅に低減され、精度の高い測定ができます。

◇アースの取りかた

本器の測定用接地端子（CH1 INPUT の左）を被測定回路の GND に接続します。高周波の信号を正確に観測するときは、特にアースのとりかたが大切です。プローブのアースリードは信号の近くのアースにできるだけ短く接続します。

◇電源 STBY または OFF *¹ 時の設定

電源を STBY または OFF にすると、その直前のパネルセットアップが記憶されます。再度電源を投入すると、STBY または OFF 直前のパネルセットアップで再開します。電源 OFF 時は内蔵バッテリーでバックアップされます。*¹ 電源コードをコンセントから抜いた状態

2.1 輝線の表示と画面の調整

輝線を表示し、画面の調整をします。

操作方法

手 順

①本器を次のように設定します。

画 面 INTEN, FOCUS : いずれも 中央

READ OUT, SCALE : いずれも 中央

垂直軸 CH1 POSITION : 中央

水平軸 POSITION : 中央

同期部 TRIG LEVEL : 中央

②POWER を ON にし、SWEEP MODE の **AUTO** と HORIZ DISPLAY の **A** を押します。

← ・約 30 秒位すると、輝線が画面中央付近に現れます。

画面の調整

③【INTEN】を回して輝線の明るさを調整します。

④【INTEN (BEAM FIND)】を押します。

← ・圧縮した波形を画面中央に表示します。
波形が画面外にあるとき、位置の確認ができます。
・確認後は、もとに戻します。
・画面に文字が表示されていない場合は手順⑤を行います。
画面に文字が表示されているときは手順⑥に進みます。

←⑤【READ OUT】を押して文字を表示します。

・【READ OUT】を押す毎に ON (表示) /OFF (非表示) が切り換わります。

⑥【READ OUT】を回して表示文字の明るさを調整します。

⑦【FOCUS】を回して輝線と表示文字の焦点を調整します。

・波形を入力したときは、再調整をしてください。

◇トレースの輝度を上げすぎてフォーカスが合わなくなったときは、【FOCUS】にて再度調整します。

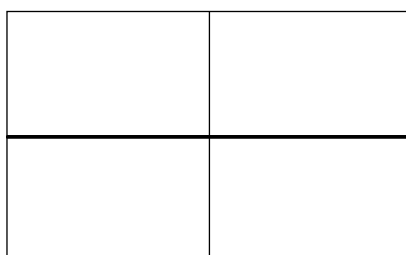
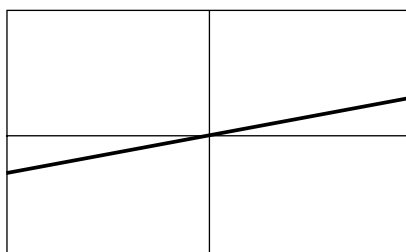
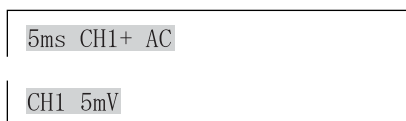
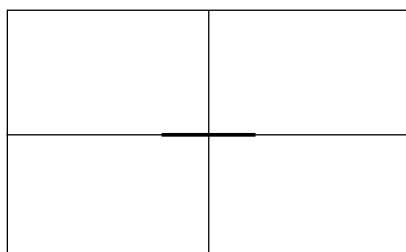
◇表示文字 (READOUT) と輝線 (TRACE) の輝度差を大きくしたときは、両方のフォーカスが同時に合わなくなります。このときは【INTEN】または【READ OUT】を回して輝度が同じになるように調整します。

⑧【SCALE】を回して目盛りの明るさを調整します。

← ・地磁気などの影響で輝線が傾いているときは手順⑨を行います。

輝線の傾きの修正

←⑨付属の調整用ドライバで正面パネル上の TRACE ROTATION を回して輝線の傾きを修正します。



2.2 プローブの波形調整

付属プローブの波形を調整します。プローブを使用する前に、必ずプローブの波形が正しく補償されていることを確認してください。

操作方法

手順

- ① 付属のプローブを **CH1 INPUT** と **CAL OUT** に接続します。

プローブのコネクタ → CH1 入力端子

プローブの先端 → CAL 出力端子

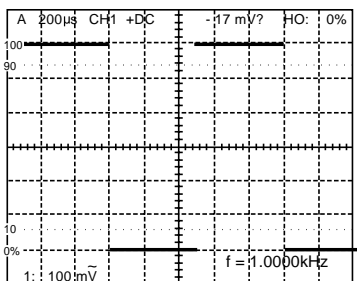
- ② 本器を次のように設定します。

CH1 VOLTS/DIV : 10 mV/div, AC/DC : DC, GND : OFF (GND 解除)

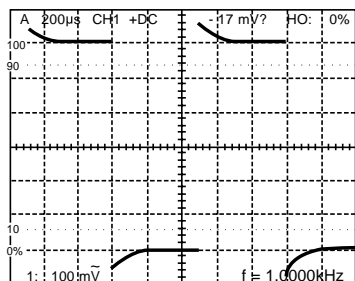
SOURCE : CH1, SEC/DIV : 200 μ s

- ③ **【TRIG LEVEL】** を回して 同期をかけます。

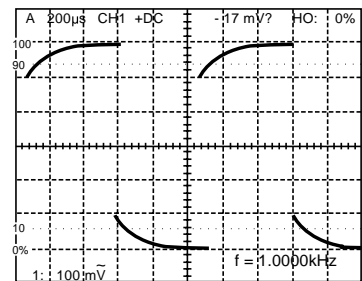
- ④ ドライバでプローブの可変コンデンサを回して波形を調整します。



正しく補償されている波形



補償過剰の波形



補償不足の波形

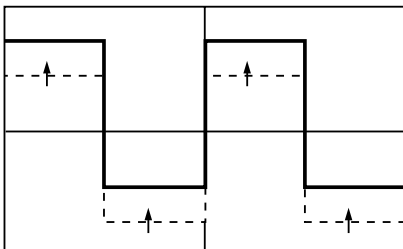
◇プローブセンス

付属のプローブにはプローブセンス機能が付いていません。プローブセンス機能付きのプローブ (SS-0130R) をご使用の場合のみ、電圧レンジ表示はプローブの減衰比で補正された値になります。

2.3 位置 (POSITION) の調整

垂直 および 水平位置を調整します。観測しやすい位置に移動したり、波形を重ねて比較測定するときに使用します。

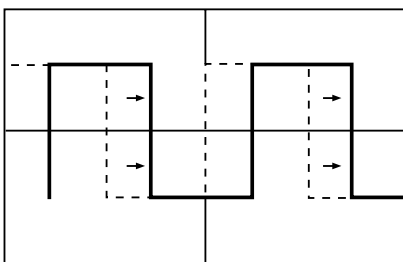
操作方法



手順

垂直(上下)位置の移動

- ① CH1 の **【▲POSITION▼】** を右に回すと波形が上に移動します。
 - ② CH1 の **【▲POSITION▼】** を左に回すと波形が下に移動します。
- ◇CH2 も同様に操作します。



水平(左右)位置の移動

- ① **【◀POSITION▶】** を右に回すと 波形が右に移動します。
- ② **【◀POSITION▶】** を左に回すと 波形が左に移動します。
- ③ **【FINE】** を押す毎に、FINE インジケータ が点灯 または 消灯します。
 - ・FINE インジケータ 点灯時、**【◀POSITION▶】** を回すと微調整になります。このとき **【◀POSITION▶】** を回し切ると、波形がスクロールします。途中でスクロールを止める場合は、**【◀POSITION▶】** を少し戻してください。

2.4 垂直部

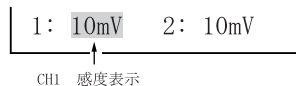
2.4.1 電圧感度 (VOLTS/DIV, VARIABLE)

波形の振幅を見やすい大きさに設定します。

操作方法

手 順

VOLTS/DIV の設定

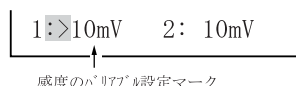


←①CH1 の【VOLTS/DIV】を回して電圧感度を選択します。

- ・ 2 mV/div～5 V/div (1-2-5 ステップ) で選択できます。
- ・ 画面左下に垂直感度を表示します。

[注]VOLTS/DIV を切り換えた時に輝線が上下に移動する場合は、自動校正を行ってください(「第4部 日常の点検」参照)。

VARIABLE(ハリアブル)の設定



←②CH1 の【VOLTS/DIV】を押すと“>”符号付きの感度表示になります。

この画面で微調整ができます。

←③CH1 の【VOLTS/DIV】を回すとステップ間の電圧感度が連続的に変わります。

- ・ 設定値が最大 または 最小値になると“CH1 VAR LIMIT”を表示します。バリアブルを解除するときは 再度【VOLTS/DIV】を押して“>”符号を消します。CH2 も同様に操作します。

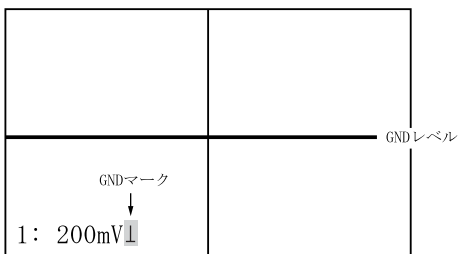
2.4.2 入力結合 (DC, AC, GND)

入力信号の種類に合わせて観測に適した結合方法を選択します。

操作方法

手 順

GND を選択



←①CH1 の **GND** を押して GND を ON (画面左下に GND マークを表示) に設定します。

- ・ 垂直増幅器の入力部が GND に接続され 輝線 (接地電位) を表示します。

[注]GND 時に 実際の接地電位と差がある場合は、自動校正を行ってください(「第4部 日常の点検」参照)。

DC または AC を選択

①CH1の **GND** を押して GND を OFF (GND解除) に設定します。

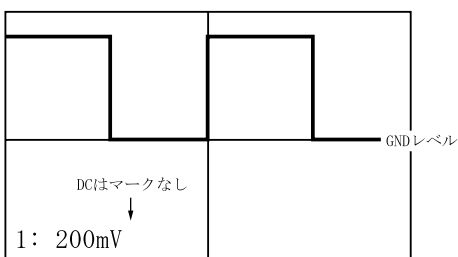
②CH1の **DC/AC** を押して DC または AC に設定します。

- ・ CH2 も同様に操作します。

◇DC

入力信号の直流 および 交流成分を表示します。

← ・ GND レベルを基準にして CAL 波形表示します。

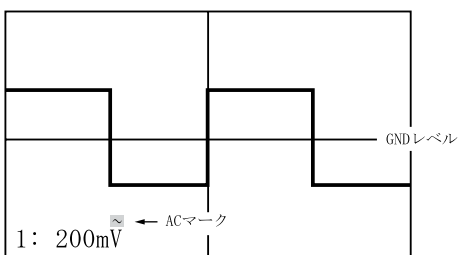


◇AC

・ 入力信号の直流分がカットされ 交流分だけを表示します。

← ・ 平均電位を中心にして CAL 波形を表示します。

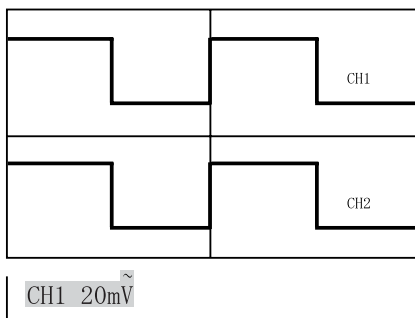
・ Vの上に“~”を表示します。



2.4.3 表示チャンネル (CH1, CH2)

CH1 または CH2 に入力した信号を表示します。

操作方法



手順

←① **CH1** または **CH2** を押して ON (表示) /OFF (非表示) を選択します。

◇ON に設定したチャンネルの INPUT に加えた信号を画面に表示します。OFF にすると表示が消えます。

←◇ON にしたチャンネルの CH 番号, VOLTS/DIV, 入力結合を画面左下に表示します。OFF にすると表示が消えます。

[注]すべてのチャンネル (CH1, CH2, ADD) を OFF に設定した場合は CH1 を表示します。

2.4.4 ALT と CHOP

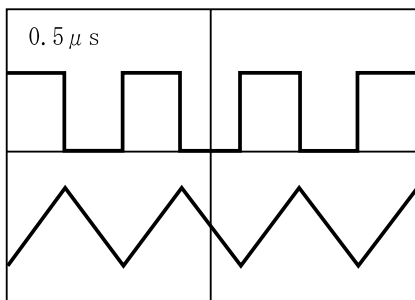
2 チャンネル表示しているとき, 表示方式 (ALT, CHOP) を選択します。

操作方法

手順

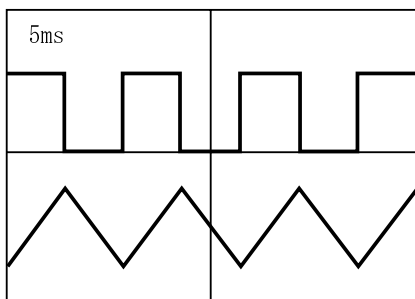
①CH1 および CH2 を表示します (「2.4.3 表示チャンネル」参照)。

② **ALT CHOP** を押して ALT または CHOP (インジケータ点灯) を選択します。



←◇ALT (オルタネート)

- 入力信号を交互に切り換えて掃引します。
- 2 チャンネルで, 周波数の高い信号を観測するのに適しています。



←◇CHOP (チョップ)

- 約 555 kHz の周波数で入力信号を切り換えて表示します。
- 2 チャンネルで, 周波数の低い信号を観測するのに適しています。

2.4.5 和 (ADD) と差 (INV)

2 つの信号間で加算 (CH1+CH2) または 減算 (CH1-CH2) をします。ADD を選択し、さらに CH2 INV の設定で加算 または 減算の選択ができます。

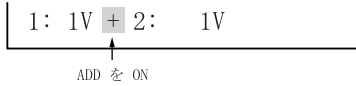
操作方法

手 順

① CH1 および CH2 を ON (表示) に設定します (「2.4.3 表示チャンネル」参照)。

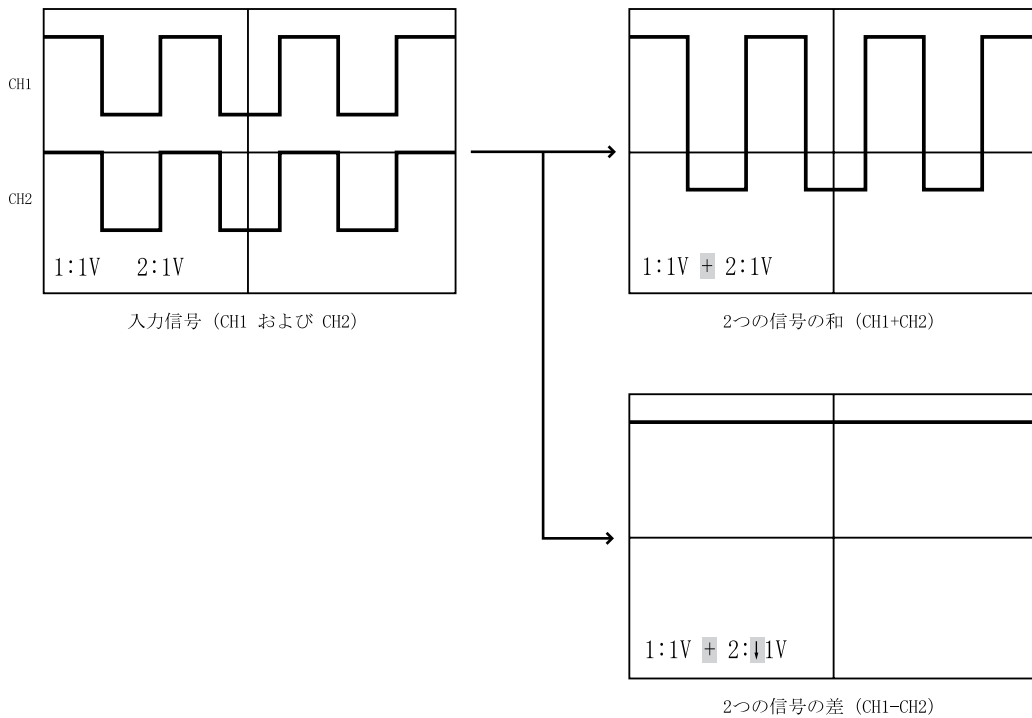
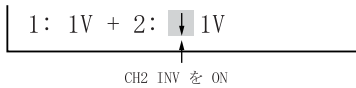
←② **ADD** を押して ADD を ON (画面左下に “+” 表示) に設定します。

・ 2 つの信号を加算 (CH1+CH2) した波形を画面に表示します。



←③ **INV** を押して INV を ON (画面左下に “↓” 表示) に設定します。

・ CH2 の信号の極性が反転し、2 つの信号間で減算 (CH1-CH2) した波形を画面に表示します。

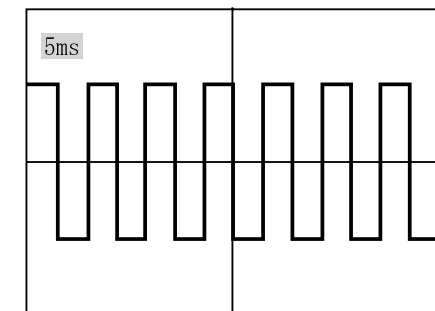


2.5 掃引時間 および 拡大

2.5.1 掃引時間 (TIME/DIV, VARIABLE)

A 掃引 の掃引時間 (TIME/DIV) を選択します。

操作方法



掃引開始点 (拡大/縮小の基準点)

>5ms

手 順

TIME/DIV の設定

- ① **【TIME/DIV】** を回して掃引時間を選択します。
 - ← 画面左上に設定した掃引時間を表示します。
 - 波形は掃引開始点を基準にして拡大 または 縮小されます。

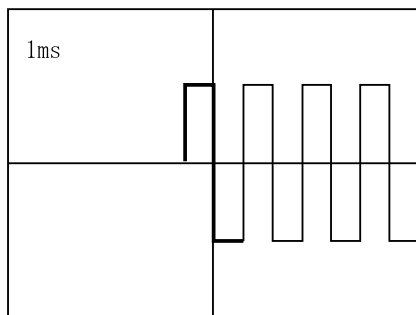
VARIABLE (ハリアブル) の設定

- ←② **【TIME/DIV】** を押すと 画面左上に “>” 付きで 掃引時間を表示します。
- ③ **【TIME/DIV】** を回すとステップ間を連続可変します。
 - 設定値が最大 または 最小値になると “VAR LIMIT” を表示します。
 - バリアブルを解除するときは、再度 **【TIME/DIV】** を押し “>” 表示を消します。

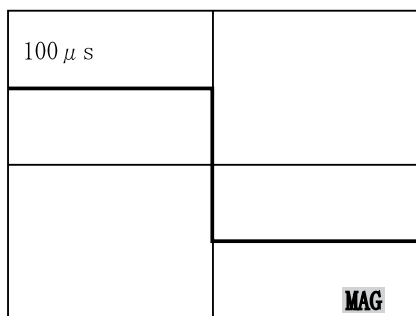
2.5.2 拡大 (×10 MAG)

画面中央を基準にして、波形を 10 倍に拡大します。

操作方法



画面中央 (拡大の基準点)



手 順

- ① **【TIME/DIV】** で掃引時間を設定します。
- ←② **【◀POSITION▶】** で拡大したい波形の位置を画面中央に設定します。
 - 左図の場合、太線の部分を拡大します。
- ③ **【×10 MAG】** を押します。
 - ← 掃引時間が 10 倍速くなり、波形が画面中央から左右に拡大されます。
 - 画面右下に MAG を表示します。

2.6 掃引方式 (SWEEP MODE)

掃引方式 (AUTO, NORM, SINGLE) を選択します。

2.6.1 繰り返し掃引

AUTO (自励掃引) または NORM (起動掃引) を選択します。

操作方法

手 順

① SWEEP MODE で **AUTO** または **NORM** を押して 繰り返し掃引を選択します。

- ・ AUTO を選択すると AUTO のインジケータ, NORM を選択すると NORM のインジケータ が点灯します。
- ・ 同期がかかっていないときは【TRIG LEVEL】などを調整して同期をかけます。
詳細は「2.7 同期部」をご参照ください。

AUTO (自励掃引)

- ・ トリガレベルを調整して同期をかけます。同期がかからない場合は自励掃引をします。
- ・ トリガ信号の周波数が以下のとき, 自励掃引をして同期が不安定になることがあります。
この場合は, NORM で同期をかけてください。
掃引時間 500ms~10ms/div にて, 約 10Hz 以下
掃引時間 5ms/div 以上のレンジにて, 約 50Hz 以下

NORM (起動掃引)

- ・ トリガレベルを調整して同期をかけます。同期がかからない場合は掃引しません。
- ・ トリガソースが CH1 または CH2 で, かつ 入力結合が GND のとき, 自励掃引します。
この機能で GND の位置が容易に確認できます。

2.6.2 単掃引 (SINGLE)

単掃引 (SINGLE) を選択します。

操作方法

手 順

① SWEEP MODE の **SGL/RST** を押して 単掃引を選択します (SGL/RST インジケータ 点灯)。

- ・ READY インジケータ が点灯し, 信号待になります。

◇トリガ信号が発生すると 一度だけ掃引します。

- ・ READY インジケータ が消灯します。
- ・ CHOP モード では CH1 および CH2 が同時に掃引します。
- ・ ALT モード では 1 チャンネルだけ掃引します。

②再度, 単掃引を行なうときは, もう一度 **SGL/RST** を押します。

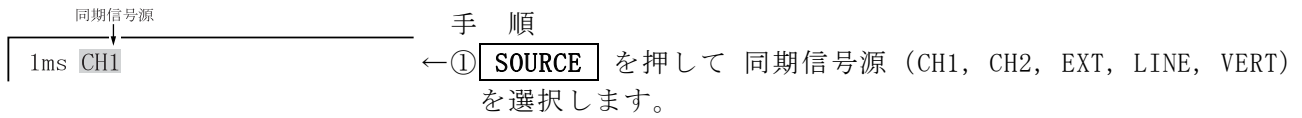
2.7 同期部

入力した信号を画面で安定した状態（止まって見える状態）にして観測するための操作です。

2.7.1 同期信号源 (SOURCE)

同期信号源を選択します。

操作方法



CH1 : CH1 に入力した信号を同期信号源にします。

CH2 : CH2 に入力した信号を同期信号源にします。

LINE : 電源ラインを同期信号源にします。電源周波数に同期した信号の観測に適しています。

EXT : 外部信号を同期信号源にします。外部信号は正面パネルの EXT INPUT に接続します。

[注]EXT INPUT の最大入力信号は ±400V です。これ以上の電圧は入力しないでください。

VERT : 画面に表示している チャンネルのうち、若い番号に入力した信号を同期信号源にします。

但し、加算 (ADD) を選択しているときは 表 2 を参照ください。

表 1 ADDが選択されていないとき

表示チャンネル	同期信号源
CH1	CH1
CH2	CH2
CH1, CH2	CH1

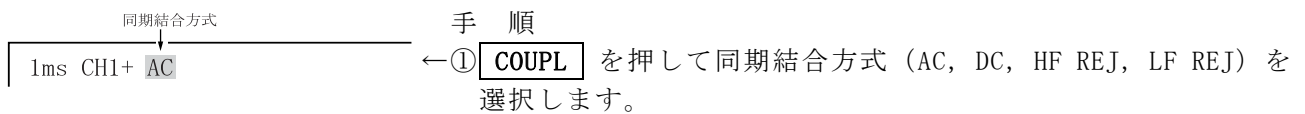
表 2 ADDを選択したとき

表示チャンネル	同期信号源
ADD	CH1
CH1, ADD	CH1
CH2, ADD	CH2
CH1, CH2, ADD	CH1

2.7.2 同期結合方式 (COUPL)

同期結合方式を選択します。

操作方法



AC : 交流結合です。同期信号源の直流分を除去して、交流成分で同期をかけます。
下限周波数は 100 Hz です。

DC : 直流結合です。すべての周波数成分を含んだ信号で同期をかけます。

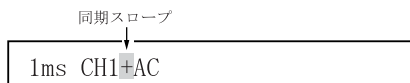
HF REJ : ローパスフィルタ結合です。10 kHz 以上の周波数成分を減衰させて同期をかけます。
同期信号源に高周波ノイズが含まれている場合、そのノイズにより同期信号が不安定になる場合に使用します。

LF REJ : ハイパスフィルタ結合です。10 kHz 以下の周波数成分を減衰させて同期をかけます。
同期信号源に低周波ノイズ（電源周波数のハムなど）が含まれている場合、そのノイズにより同期信号が不安定になる場合に使用します。

2.7.3 同期スロープ (SLOPE)

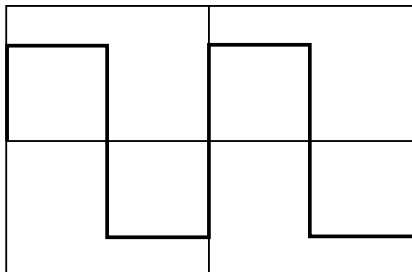
同期スロープを選択します。

操作方法

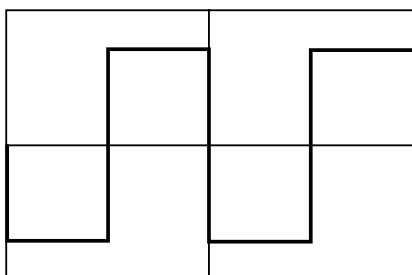


手 順

←① **SLOPE** を押して スロープ (+, -) を選択します。



← ・ + (波形の立ち上がりから掃引を開始)

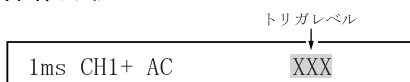


← ・ - (波形の立ち下がりから掃引を開始)

2.7.4 同期レベル (LEVEL)

同期レベル (同期点の電圧) を調整します。

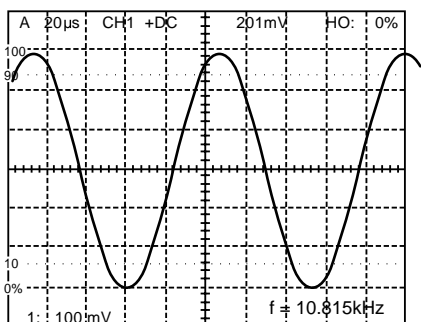
操作方法



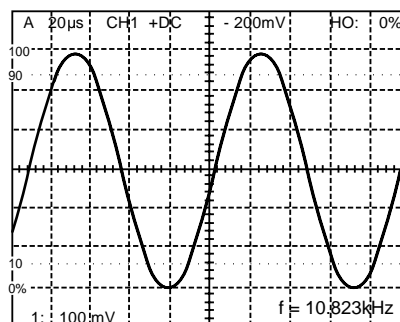
手 順

←① **TRIG LEVEL** を回してトリガレベルを調整します。

- ・トリガ信号を発生すると TRIG'D インジケータが点灯します。
- ・表示値の右側に “?” を表示することがあります。AC 結合や VARIABLE を設定していると、直読できないことを示しています。



【TRIG LEVEL】を中央から右回し



【TRIG LEVEL】を中央から左回し

2.7.5 テレビ同期

NTSC および PAL (SECAM) 対応のテレビ信号の同期方式を選択します。

操作方法

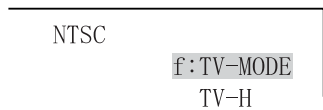
手 順

① **TV** を押して **TV 同期方式** (BOTH, ODD, EVEN, TV-H) を選択します。

- ・同期スロープは被映像信号の同期信号成分が正極性のときは”+”，負極性のときは”-”に設定する。

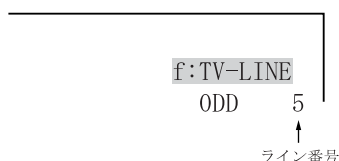
←◇**TV-H** を選択したとき

- ・ファンクション表示が f:TV-MODE になります。
- ・【FUNCTION】を回して NTSC または PAL (SECAM) を選択します。

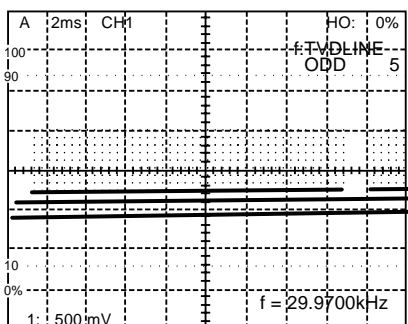


←◇**BOTH, ODD** または **EVEN** を選択したとき

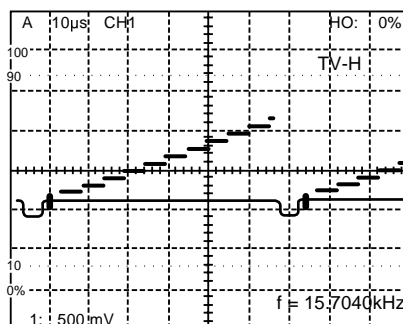
- ・ファンクション表示が f:TV-LINE になります。
- ・【FUNCTION】を回して ライン番号を選択します。
- ・【FUNCTION】を押す毎に または 押し続けると今まで回していた方向に粗調整 (COARSE) ができます。



- ODD : 奇数フィールドの垂直同期信号からの水平同期信号のライン番号を選択して同期をかけます。
 EVEN : 偶数フィールドの垂直同期信号からの水平同期信号のライン番号を選択して同期をかけます。
 BOTH : 奇数フィールド または 偶数フィールドの垂直同期信号からの水平同期信号のライン番号を選択して同期をかけます。
 TV-H : 水平同期パルスで同期をかけます。



垂直同期パルスで同期をかける

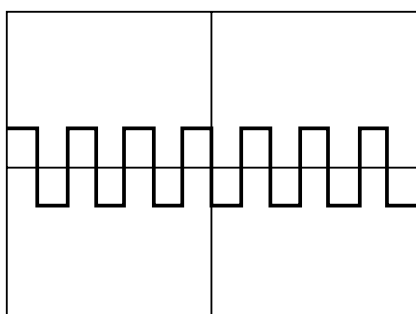


水平同期パルスで同期をかける

2.8 表示方式 (HORIZ DISPLAY)

表示方式 (A, X-Y) を選択します。

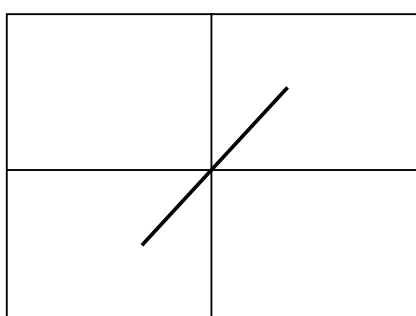
操作方法



手 順

① **HORIZ DISPLAY** で **A** または **X-Y** を押して, A または X-Y を選択します。

←◇ **A**
掃引をします。



←◇ **X-Y**

- CH1 入力を X 軸とし, それぞれのチャンネル (CH1, CH2, ADD) を Y 軸とした X-Y 表示をします。
- ヒステリシスカーブ, リサージュ波形の観測などに使用します。

2.9 ホールドオフ (HOLDOFF)

複雑な組み合わせのパルス列を観測する場合, 安定した同期がかからない場合があります。このような場合, 安定した同期が得られるようにホールドオフ (掃引休止) 時間を調整します。

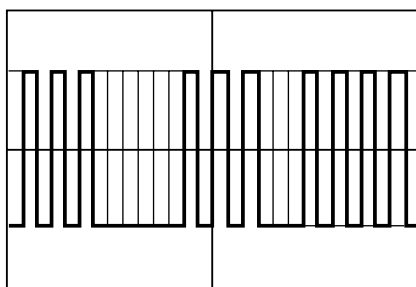
操作方法



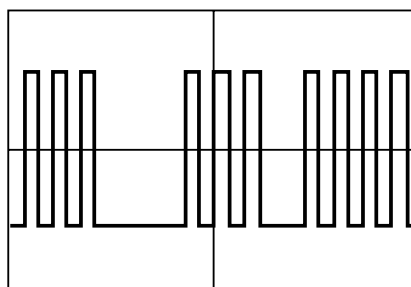
手 順

←① **HOLDOFF** を押して **HOLDOFF** を選択します。

- ファンクション表示が f:HOLDOFF になります。
- ② **【FUNCTION】** を回して ホールドオフ時間を調整します。
- **【FUNCTION】** を押す毎に または 押し続けると 今まで回していた方向に粗調整 (COARSE) ができます。
- ホールドオフ時間は右回し一杯で最大値 (100%), 左回し一杯で最小値 (0%) になります。
- 通常は 0% で使用します。



調整前の波形 (二重表示)



調整後の波形

第3部 カーソル測定とカウンタ

カーソルを使って時間差と周波数 (Δt , $1/\Delta t$) または 電圧差 (ΔV) 測定をします。

◇測定項目の選択

- ・ **$\Delta V \cdot \Delta t \cdot OFF$** を押して ΔV (電圧測定) または Δt (時間測定) を選択します。

◇カーソルの操作

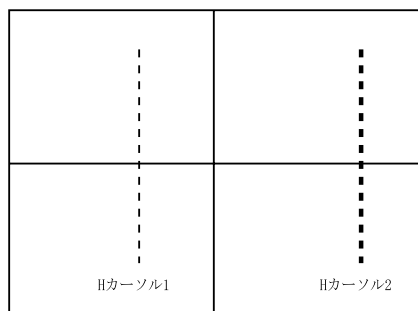
- ・ Δt または ΔV を選択すると 測定用のカーソルを 2 本表示します。
- ・ **【FUNCTION】** を回してカーソル位置を調整します。
【FUNCTION】 を押す毎に または 押し続けると 今まで回していた方向に粗調整 (COARSE) ができます。
- ・ **TCK/C2** を押す毎に、移動可能なカーソルと “|” 記号が変わります。

変わる順番は C1 (カーソル1) → C2 (カーソル2) → TCK (トラッキング) からです。

3.1 時間差 (Δt) および 周波数 ($1/\Delta t$)

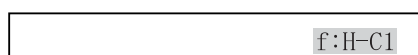
カーソル間の時間差 (Δt) と周波数 ($1/\Delta t$) を測定します。

操作方法



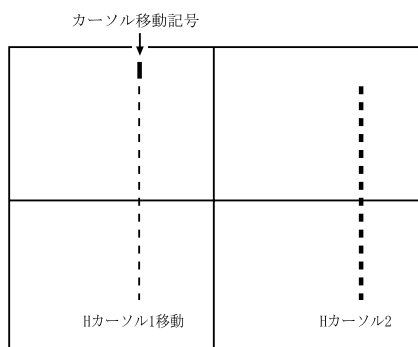
手順

- ←① **$\Delta V \cdot \Delta t \cdot OFF$** を押して Δt を選択します。
- ・ Hカーソル1 および Hカーソル2 を表示します。
 - ・ 画面左下にカーソル1 とカーソル2 間の Δt (時間差) と $1/\Delta t$ (周波数) の測定結果を表示します。
 - ・ カーソル1 とカーソル2 を測定点に移動して、測定を行います。



カーソル1の設定

- ←② **TCK/C2** を押して C1 (カーソル1) を選択します。
- ・ ファンクション表示が f:H-C1 になります。



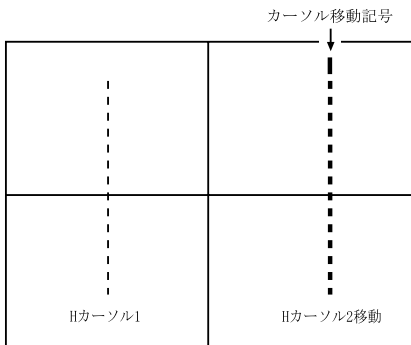
- ←
- ・ Hカーソル1の上側に、Hカーソル1の移動可能なことを示す “|” 記号を表示します。

- ③ **【FUNCTION】** を回して Hカーソル1 () を測定点に移動します。

f:H-C2

カーソル 2 の設定

- ←④ **TCK/C2** を押して **C2** (カーソル 2) を選択します。
・ファンクション表示が f:H-C2 になります。



- ← ・Hカーソル 2 の上側に、Hカーソル 2 の移動可能なことを示す“|”記号を表示します。

- ⑤ **【FUNCTION】** を回して **Hカーソル 2** (|) をもう一方の測定点に移動します。

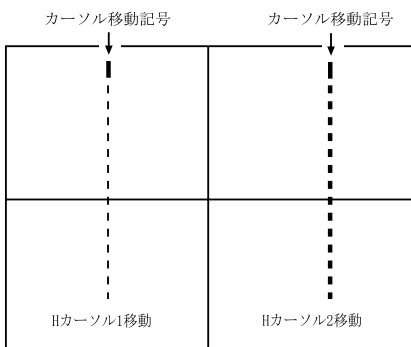
A $\Delta t=40.00\text{ms}$ 1 / $\Delta t=25.0\text{Hz}$

- ← ・新たに設定したカーソル間の時間差と周波数の測定結果を画面左下に表示します。

f:H-TRACK

トラッキングの設定

- ←⑥ **TCK/C2** を押して **TCK** (トラッキング) を選択します。
・ファンクション表示が f:H-TRACK になります。



- ← ・Hカーソル 1 と Hカーソル 2 の上側に両方のカーソルが移動可能なことを示す“|”記号を表示します。

- ⑦ **【FUNCTION】** を回すと Hカーソル1 と Hカーソル2 がカーソル間の間隔を保持したまま移動します。

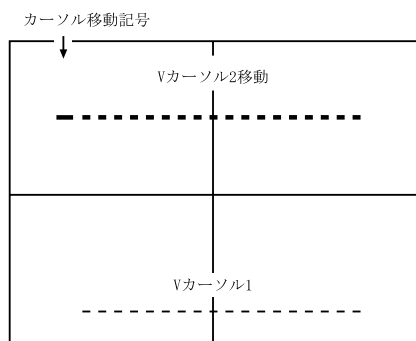
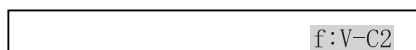
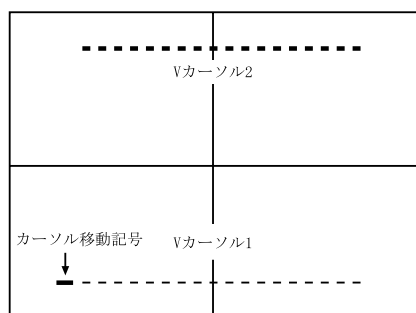
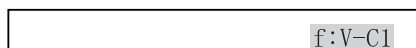
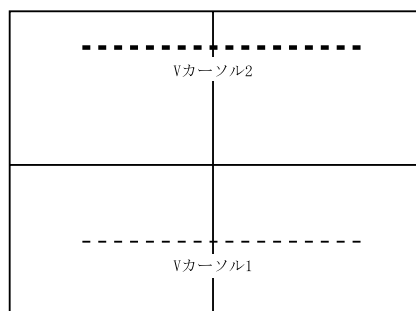
◇ Δt 測定の解除

- $\Delta V \cdot \Delta t \cdot \text{OFF}$** を押して **OFF** (カーソル表示なし) を選択します。

3.2 電圧差 (ΔV)

カーソル間の電圧差を測定します。

操作方法



手順

- ←① **ΔV・Δt・OFF** を押して ΔV を選択します。
- V カーソル1 および V カーソル2 を表示します。
 - 画面左下に カーソル1 と カーソル2 間の $\Delta V1$ (CH1) と $\Delta V2$ (CH2) の測定結果を表示します。
 - カーソル1 と カーソル2 を測定点に移動して、測定を行います。

カーソル 1 の設定

- ←② **TCK/C2** を押して **V-C1** (カーソル 1) を選択します。
- ファンクション表示が f:V-C1 になります。

- ←
- V カーソル 1 の左側に、V カーソル 1 の移動可能なことを示す “-” 記号を表示します。

- ③ **【FUNCTION】** を回して **V カーソル1 (...)** を測定点に移動します。

カーソル 2 の設定

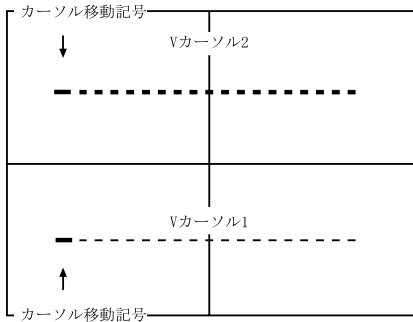
- ←④ **TCK/C2** を押して **f:V-C2** (カーソル 2) を選択します。
- ファンクション表示が f:V-C2 になります。

- ←
- V カーソル 2 の左側に、V カーソル 2 の移動可能なことを示す “-” 記号を表示します。

- ⑤ **【FUNCTION】** を回して **V カーソル 2 (...)** をもう一方の測定点に移動します。

- ←
- 新たに設定したカーソル間の電圧差の測定結果を画面左下に表示します。
 - 測定結果の表示は、ON にしているチャンネル (CH1, CH2) のうち、若い番号の2つのチャンネルが有効です。

f:V-TRACK



トラッキングの設定

← ⑥ **TCK/C2** を押して **TCK** (トラッキング) を選択します。

- ・ファンクション表示が f:V-TRACK になります。

← ・V カursor 1 と V カursor 2 の左側に両方のカーソルが移動可能なことを示す “-” 記号を表示します。

⑦ **【FUNCTION】** を回すと V カursor 1 と V カursor 2 がカーソル間隔を保持したまま移動します。

◇ ΔV 測定の解除

ΔV・Δt・OFF を押して OFF (カーソル表示なし) を選択します。

3.3 カウンタ (COUNTER)

入力信号の周波数をカウンタで測定します。

操作方法

手 順

① A 同期をかけます (“2.7 同期部” 参照)。

f=1.0000kHz

← ・A 同期がかかっているときは、測定結果を常時画面右下に表示します。

- ・指定された A 同期信号源が測定対象になります。
- ・VERT モードでの A 同期信号源は、若い番号に入力した信号を同期信号源にします (“2.7.1 同期信号源 VERT” 参照)。

f= 0.0000 Hz

← ・A 同期がかかっていない場合 または 入力信号が測定可能な周波数範囲を超えている場合は、0 Hz を表示します。

第 4 部 日常の点検

a. 手入れの方法

◇クリーニング

外装とカバーの汚れは柔らかい布に水 または 薄めた中性洗剤を少量含ませて軽く拭いてください。クリーニングに使用してはいけない溶剤や洗剤を使用すると変色したり、予期しない障害の原因になります。

- ・ 使用できる溶剤 または 洗剤 : 水、中性洗剤（薄めたもの）
- ・ 使用できない溶剤 または 洗剤 : アルコール、ガソリン、アセトン、ラッカー、エーテル、シンナー、ケトン系を含む洗剤

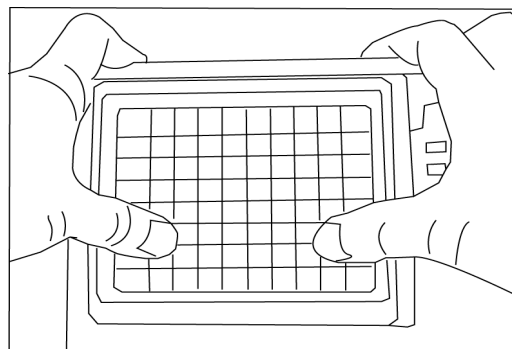
◇CRT の汚れ

次の方法で汚れをとります。

- ・ 普通の汚れは柔らかい布で拭きます。
- ・ 特にひどい汚れは、中性洗剤を含ませた布で拭き取ります。

◇フィルターの取り外し方

1. フィルター下部を指で上へずらす。
2. そのままフィルターをブラ管面側へ押す。
*フィルター下部を手前に引く。
3. フィルター下部を持ってフィルターを外す。



b. 定期校正の時期

信号を正しく測定するためには、定期的に測定器の点検と校正を行う必要があります。連続的に使用しているときは 2000 時間毎、通常は約 1 年毎に校正を行うのが適当です。

c. 垂直軸の自動校正

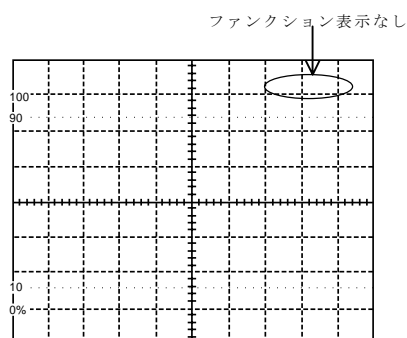
次の項目を自動校正します。

- ・ 電圧感度を切り換えたときの輝線の垂直位置変化の校正
- ・ GND 位置の校正
- ・ 垂直軸の位置の校正

注 意

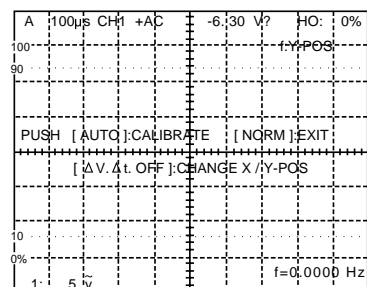
- BEAM FIND を離した状態にしてください。
BEAM FIND を押した状態では、正しい自動校正ができません。
- 無信号状態にしてください。
いずれかの INPUT (CH1, CH2, EXT) に信号を入力していると、正しい自動校正ができません。

操作方法



手順

- ←① ファンクションをすべてオフにして、【FUNCTION】キーを無効状態 *1 にします。
*1 画面右上に f:XXXXX を表示していない状態
- ② 【READOUT】を押し OFF (非表示) を選択します。



- ←③ 【FUNCTION】を約 3 秒間押すと、システムメニューになります。
←画面中央に f:X-POS メッセージを表示します。

- ④ **AUTO** を押すと自動校正を開始します。
◇ 自動校正を中止するときは **NORM** を押します。
◇ 自動校正が正常に終了しなかった場合は、エラーメッセージを表示します。信号を入力していないことを確認して、数回自動校正を実行してエラーメッセージを表示したときは、当社のサービス取扱所にご連絡ください (別紙ネットワーク参照)。

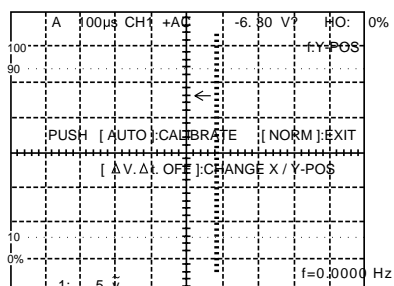
d. キャラクタセンタの校正

地磁気などの影響で、文字の位置がずれた場合に、文字の位置を校正します。

注意：キャラクタセンタの校正は電源投入から 30 分以上経過したあとで調整してください。

操作方法

図④



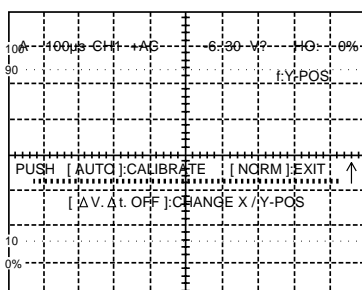
手順

- ①～③ “c. 垂直軸の自動校正” と同じです。
画面に下図のように表示されます。

水平位置の調整

- ④ **ΔV. Δt. OFF** を押して X 軸を選択します。
【FUNCTION】を回し READ OUT の X 方向の表示位置を調整します。図④参照

図⑤



垂直位置の調整

- ⑤ **ΔV. Δt. OFF** を押して Y 軸を選択します。
【FUNCTION】を回し READ OUT の Y 方向の表示位置を調整します。図⑤参照

- ⑥ **NORM** を押して調整を終了します。

e. 診断の手引き

本器が動作しない または 異常と思われるときは“表 5.1.1 診断の手引き”の内容をご確認ください。

f. 保管・輸送

◇ 保 管

次の所に保管しないでください。

- ・ 直射日光の当たるところ
- ・ ほこりの多いところ
- ・ 腐食性ガスを発生するところ

本器を保存する場合の条件を下記に示します。

保存温度：-20℃～+70℃

保存湿度：80% RH (-20℃～+70℃) 以下

◇ 輸 送

本器を輸送する場合はご購入時に付属していた梱包材料か、同等以上の梱包材料をご使用ください。

表 5.1.1 診断の手引き

現 象	確 認 事 項	処 置
輝線 または 輝点が 現れない	電源コードのプラグが AC コンセントに 接続してありますか?	AC コンセントに接続する
	電源スイッチが ON になっていますか?	電源スイッチを ON にする
	INTEN が左回しになっていませんか?	適当な輝度になるように右に回す
	SWEEP MODE が SINGLE になっていま せんか?	AUTO に設定する
画面の目盛り照明 がはっきりしない	SCALE が左回しになっていま せんか?	適当な明るさになるように右に回す
	目盛り照明用ランプが断線していま せんか?	最寄りの営業所など* ¹ ご連絡く ださい。
文字表示しない	READOUT が左回しになっていま せんか?	適当な明るさになるように右に回す
輝線、文字表示の 焦点があまい	FOCUS の調整がずれていま せんか?	鮮明になるように調整する
信号を入力しても 波形が現れない	プローブが断線していま せんか?	プローブを交換する
	入力結合を GND に設定していま せんか?	GND を解除する
	チャンネルの選択を間違えていま せんか?	入力信号を接続しているチャンネル の設定を ON にする
	電圧感度を低くしすぎていま せんか?	感度を高くする
同期がとれない		AUTO SET を押す
	同期信号源の選択を間違えていま せんか?	同期信号が入力しているチャンネルを 選択する
	同期結合方式の選択を間違えていま せんか?	入力信号に合った同期結合方式に再 設定する
	レベルの設定が不適切な位置になっ ていませんか?	同期のかかる位置にレベルを調整す る
波形がゆれる	AC 電源電圧が低下しすぎていま せんか?	定格内の AC 電源で使用する
電源再投入時も との設定に戻らない		最寄りの営業所など * ¹ に連絡して バッテリーを交換してください

*¹ 別紙ネットワークをご参照ください。

第 5 部 性 能

CRT

形 状 6 インチ, 角型, 内面目盛, 目盛照明付きメッシュレス CRT
 有効面 8 div×10 div (1 div=10 mm)
 加速電圧 約 16 Kv

垂直偏向系 (Y 軸)

垂直モード CH1, CH2, ADD, ALT/CHOP (555 kHz ± 1 %)

CH 1, CH 2

感 度

レンジ 2 mV/div~5 V/div 1-2-5 ステップ, 11 段切換え

微調器 2 mV/div~12.5 V/div 連続可変

確 度 ± 2 %

周波数特性

5 mV~5 V/div DC~40 MHz -3dB (SS-7804) / DC~50 MHz -3dB (SS-7805)

2 mV/div DC~20 MHz -3dB (SS-7804) / DC~20 MHz -3dB (SS-7805)

[注] AC 結合時の下限周波数は 4 Hz

立ち上がり時間

8.75 ns (SS-7804) / 7.0 ns (SS-7805)

[注] 立ち上がり時間 Tr は次式からの計算値であり、保証値ではありません。

$$Tr[s] = \frac{0.35}{\text{帯域幅 [Hz]}}$$

方形波特性

10 mV/div, 50 Ω 終端にて

オーバシュート 3 % (SS-7804) / 8 % (SS-7805)

サグ (1kHz にて) 1 % (SS-7804) / 1 % (SS-7805)

信号遅延

約 30 ns 以上

入力結合

AC, DC, GND

入力 RC

1 MΩ ± 1.5 % // 25 pF ± 2 pF

最大許容入力電圧

± 400 V DC+ACpeak

位置の移動

画面中央から 約 10 div

極性切換え

CH2 のみ可

A D D

和の確度 (1kHz にて) ± 3 %

周波数特性 DC~20 MHz -3dB

同相除去比 50:1 1 kHz 正弦波

15:1 20 MHz 正弦波

ダイナミックレンジ 40 MHz で画面を振り切れること (SS-7804)

50 MHz で画面を振り切れること (SS-7805)

プローブセンス

付属プローブ プローブセンス機能なし

別売の専用プローブ 10:1, 100:1検出可能

同 期

最小同期レベル

周波数	CH1, CH2	EXT
DC ~ 5 MHz	0.4 div	80 mVp-p
5 MHz~40 MHz (SS-7804)	1.0 div	200 mVp-p
5 MHz~50 MHz (SS-7805)		

[注]TV:映像信号と同期信号の比が 7:3 で同期信号振幅が 1.5 div 以上

	HF-REJ : 10 kHz 以上で同期信号を減衰
	LF-REJ : 10 kHz 以下で同期信号を減衰
同期レベル範囲	±9.5 div 以上 (設定範囲は ±10 div)
信号源	CH1, CH2, EXT, LINE, VERT
結合方式	AC, DC, HF-REJ, LF-REJ
スロープ	+, -
TV 方式	NTSC, PAL (SECAM)
TV 同期	ODD, EVEN, BOTH, TV-H
	[注] ODD, EVEN, BOTH はライン選択可能
	NTSC : 5 H~2000 H
	PAL (SECAM) : 2 H~1997 H
EXT TRIG	
入力 RC	1 MΩ ±2 % // 25 pF ± 3 pF
入力結合	DC
最大許容入力電圧	±400V DC+ACpeak
プローブセンス	別売の専用プローブで 100:1, 10:1 の検出可能

水平偏向系 (X 軸)

表示方式 (HORIZ DISPLAY)	A, X-Y
掃引方式 (SWEEP MODE)	AUTO, NORMAL, SINGLE
掃引時間	
最高掃引	10 ns/div
レンジ	100 ns~500 ms/div
微調器	100 ns~1.25 s/div
確 度 I	画面中央 8 div にて ± 2 %
確 度 II	画面中央 8 div 内の任意の 2 div にて ± 5 %
ホールドオフ時間	連続可変
掃引拡大	
倍 率	10 倍
確 度 I	画面中央 8 div にて
100 ns, 200 ns/div	5 %
500 ns~500 ms/div	3 %
確 度 II *1	画面中央 8 div 内の任意の 2 div にて
100 ns, 200 ns/div	8 %
500 ns~500 ms/div	5 %

*1 掃引開始部 : 100 ns または 1 div, 掃引終了部 : 30 ns を除く

X-Y 動作

X 軸 (CH1)	
感 度	
レ ン ジ	CH1 と同じ
確 度	± 3 %
周波数特性	DC~2 MHz -3dB
Y 軸	CH1, CH2, ADD
位相差	3° 以内 (DC~50 kHz)

校正器	波形の種類	方形波
	周波数	1 kHz ± 0.1 %
	デューティレシオ	49 %~51 %
	出力電圧	0.6 V ± 1 %

カーソル測定とカウンタ

カーソル測定	
測定の種類	時間差 (Δt) , 電圧差 (ΔV)
カーソル移動範囲	
X 軸	画面中央から ± (5 ± 0.2) div
Y 軸	画面中央から ± (4 ± 0.2) div
確 度	
電圧差 (ΔV)	± [(2% of reading) + (0.3% of full scale)]
時間差 (Δt)	
MAG OFF	± [(2% of reading) + (0.3% of full scale)]
MAG ON (MAG × 10)	
100 ns, 200 ns/div	± [(5% of reading) + (0.3% of full scale)]
500 ns~500 ms/div	± [(3% of reading) + (0.3% of full scale)]

カウンタ	
表示桁数	5 桁
確 度	± 0.01 %
周波数測定範囲	2 Hz~40 MHz (SS-7804) / 2 Hz~50 MHz (SS-7805)

データ保存	内蔵電池によるバックアップ
保存データの種類	電源 OFF *2 直前のパネルセットアップ条件
	*2 電源コードを抜いた状態
バックアップ時間	約 30,000 H (約 25 °C にて)

電 源

電圧範囲	100-120 VAC / 200-240 VAC
周波数範囲	50 / 60 Hz
消費電力	最大130 VA

質量と大きさ

質 量	約 7.5 kg
大 き さ	約 272 W × 152 H × 390 D [mm]
	[注]付属品 および 突起部を含みません。

環境条件

性能保証温度	10 °C ~ 35°C
動作範囲	
温度	0 °C ~ 40 °C
湿度	90 % RH (0 °C ~ 40 °C) 以下
保存範囲	
温度	-20 °C ~ 70 °C
湿度	80 % RH (-20°C ~ 70 °C) 以下
高度	
動作時	2,000 m, 気圧 約 79 kPa
非動作時	15,000 m, 気圧 約 12 kPa
振動試験	周波数 10 Hz と 55 Hz の間を 1 分間で往復する。複振幅 0.67 mm 上下, 左右, 前後 各々 15 分 計 45 分間。
衝撃試験	一辺を 10 cm 持ち上げ, 堅木の上に自然落下させる。各辺 各 4 回
落下試験	輸送包装した後, 90 cm の高さから落下させる。
予熱時間	本器の性能規格は, 電源投入から 30 分以上経過した後の保証値です。

CE適合宣言

本製品はEMC指令89/336/EEC、及び製品の安全性のための低電圧指令73/23/ECCに適合しています。

電磁放射

EN55011 : 1991

EN55011 : 1991

Class B 、伝導放射

磁化率、帯磁率

EN50082-2 : 1995

EN61000-4-2 : 1995

静電気放電のイミュニテイ

EN50204 : 1993

RF磁化強度 (パルス変調)

EN61000-4-4 : 1995

EFT/BURSTのイミュニテイ

EN61000-4-8 : 1993

電源周波数の磁場イミュニテイ

低電圧指令

EN61010-1 : 2001

測定、制御、実験室での使用に対する電気製品の安全要求

本製品は以下のEN61010-1のカテゴリに属しています。

設置(過電圧)カテゴリ II 汚染度2

設置(過電圧)カテゴリ II : 局所的なレベル、電気製品、携帯型製品

汚染度2 : 伝導性の汚染物質が存在する環境で使用しないでください。

SS-501 (CH2 OUT, Z AXIS IN)

SS-7800 シリーズ用の工場オプションです。

SS-501 : SS-7805/7804

CH2 OUT (背面パネル)

CH2 INPUT に入力した信号を、背面パネルの BNC コネクタから出力します。

出力信号の振幅 = 画面の振幅 × 出力感度

Z AXIS IN (背面パネル)

画面で輝度変調する信号を入力します。

性能

CH2 OUT

出力感度	45 mV ± 20 % (50 Ω 負荷終端時)
出力電位	± 100 mV (50 Ω 負荷終端時)
出力結合	直流結合
周波数帯域	20 MHz - 3 dB (50 Ω 負荷終端時)
出力抵抗	50 Ω ± 20 %

Z AXIS IN

輝度変調電圧	0.5 V p-p 以上
極性	正電圧で暗、負電圧で明
入力周波数	DC ~ 5 MHz
入力抵抗	4.5 kΩ ± 20 %
入力耐圧	± 50 V DC+ACpeak

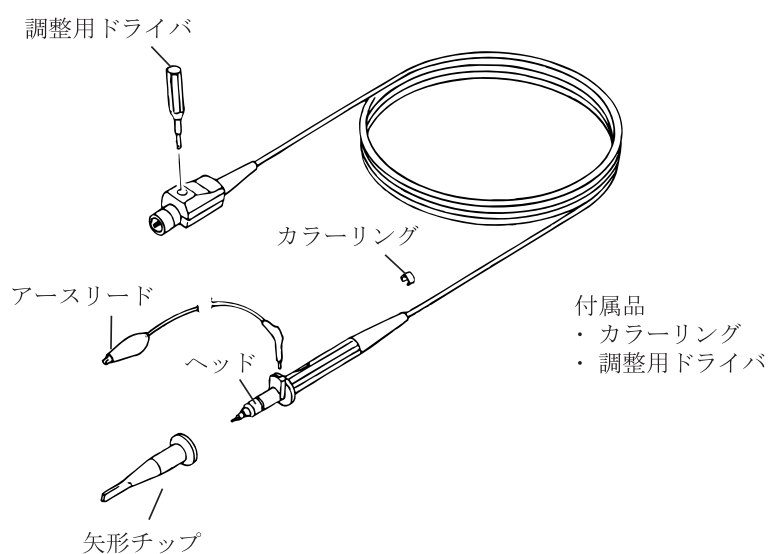
プローブ SS-0110 取扱説明書

概要

SS-0110 プローブは DC～60MHz までの周波数帯域幅を持つオシロスコープおよびデジタルオシロスコープに使用できる受動プローブです。

構成

図のように、プローブ本体と付属品から構成されます。



性能

機種名	SS-0110	
減衰比の選択	1:1のとき	10:1のとき
入力RC	1MΩ // 200pF以下	10MΩ ±2% // 22pF ±3pF
減衰比	1:1 ±1%以内	10:1 ±3%以内
プローブ本体の周波数帯域幅	DC～6MHz ±3dB	DC～60MHz ±3dB
波形補償可能な入力容量	-----	20～45pF
入力耐圧	オシロスコープの入力耐圧で制限されます。最大500V (DC+AC peak)	600V (DC+AC peak)
	[注] 1 MHz以上の周波数では入力耐圧は低下します。	
長さ	約1.5m	
コネクタの形式	BNC形	
環境条件	保証温度範囲 : 5 to 40℃ 保証湿度範囲 : 80%RH 以下 (5 to 31℃) 保存温度範囲 : -20 to +70℃	
IEC規格	IEC1010準拠 (設置カテゴリ II、汚染度 2)	

[注意] 位相調整には付属の位相調整用ドライバを使用して下さい。

製品保証

この製品は、お客様に安心してお使い頂くために下記の保証をいたします。

- ◆ **保証期間** ご納入後1年間保証いたします。
- ◆ **保証条件** 万一、保証期間内に当社の責任による不測の故障などが生じた場合には無償修復いたします。

■ お問い合わせ窓口

岩通計測株式会社

技術的な、取扱い・測定方法など

計測担当

フリーダイヤル

ハローイワツウ
0120-086-102

(受付時間：土曜、日曜を除く、営業日の9：00～12：00、13：00～17：30)

修理納期など

会津サービス課

フリーダイヤル

0120-267-905

(受付時間：土曜、日曜を除く、営業日の9：00～12：00、13：00～17：00)

● URL：<http://www.iti.iwatsu.co.jp>

● E-mail：info-tme@iwatsu.co.jp

お願い：セールスネットワーク、サービスネットワークの最新情報は、当社のホームページまたはフリーダイヤルでご確認いただくようお願い申し上げます。